

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200778		
法人名	有限会社 ベストケア・ベル		
事業所名	グループホーム・ベルⅡ		
所在地	札幌市北区屯田7条6丁目3-15		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成29年11月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=0170200778-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム・ベルⅡは、理念に掲げている様に、心と心の触れ合いを大切に、入居者家族、地域の皆様と、繋がりを深め、常により良いサービスを提供し続ける事ができるように高い意識を持って、各職員が職務に就いています。
隣接している「グループホーム・ベル」や、併設している「有料老人ホーム・すず」とお互いに交流しながら協力体制を整え、運営やケアに取り組んでいます。
家庭的な温かさを大切に、管理栄養士による献立で、旬の食材の使用はもとより、行事食個別食の対応も可能にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム・ベルⅡ」は、「屯田小学校前」の停留所から近い江南神社、小学校や保育園がある静かな住宅地に建っている。建物2階にある1ユニットの屋内は居間や食堂を中心に居室を配置し、安全に移動ができる広がりがあり家庭的な造りになっている。1階に法人経営の有料老人ホームが併設され、同法人2ユニットのグループホームが隣接している。法人事業所合同で消防署や町内会役員の協力を得て夜間を想定した避難訓練を行い、安全な環境を整備している。感謝祭には町内会役員や大勢の参加者を得て毎年行っている。近くの保育園児とは散歩中に挨拶を交わしたり、玄関前で外気浴中に園児が集まってきて触れ合うなど日常的な交流になっている。子供の声が常に聞こえる環境は利用者の暮らしに潤いを与えている。代表者は職員の育成に力を注ぎ、外部研修で学ぶ機会を積極的に取り入れている。協力医療機関の下で看取りを行い、家族の事情から後見人や行政担当者の協力を得ながら事業所で最後まで見送るなど職員は看取りケアを行う事で質の高いケアを提供している。代表者と管理者は職員とのコミュニケーションを大切に働きやすい環境を整備し、職員の定着率も高い。全員で介護計画を作成し、利用者の意向に沿った温もりのある対応で家族と共に利用者の暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関フロアーやリビングの壁、ネームプレートの裏に理念を記載し、支援の度に見る事ができるようにしている。又、毎週月曜日の申し送り後に職員は唱和している。	理念の項目に「入居者・家族・地域の皆様と、心と心の触れあいを大切にします。」という文言があり、日々の散歩や行事などで住民との触れ合いを実践している。職員は理念にある健康維持に留意し利用者の穏やかな暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の大きなイベント(感謝祭)や自衛消防訓練時など、地域の方々にも参加していただけるよう声を掛けている。保育園児との交流は常態化できている。	神社祭りに各町内から集まる子供神輿を見学し、参加できない利用者にお土産を持ち帰り、祭りの様子を伝えて楽しんでいる。定期的に保育園児と交流し、保育園の畑で採れたじゃがいもの差し入れや敬老会に手作り箸置きプレゼントもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	幅広く理解してもらう為、運営推進会議、自衛消防訓練に地域の方に参加していただいている。また、町内会のゴミ拾い等行事に参加し、理解を深めもらう。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、地域の方、利用者、利用者家族、知見者、包括支援センター職員、看護師の参加の元、報告、話し合いを行い、いろいろな意見はサービスに生かしている。	会議では委員から防犯・防災、認知症の早期発見の情報や事業所から終末期や熱中症について報告し意見を交換している。今後看護職員のミニ勉強会を予定している。参加できない家族の意見も引き出して会議に活かしたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区の管理者連絡会でも情報交換を行なっている。当事業所は、生活保護者の利用者が多い為、生活保護課担当者とは密に相談したり、助言をいただいている。	生活保護担当者と常に連携して事例の解決につなげている。区の管理者会議の研修に職員も参加し内容を共有してケアに役立てている。今後町内会や関係者と話し合い、事業所で小規模な認知症カフェが可能と考えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為11項目」を常に見える所に掲示し、確認できるようにしている。勉強会では「スピーチロック」についてもお互い気をつけて支援して行ける様に取り組んでいる。	職員が中心に身体拘束委員会を開いて事例を基に話し合い、拘束のないケアを行っている。掲示してある身体拘束禁止行為の内容も意識して正しく理解している。言葉遣いでは言い換えやイントネーションに注意し丁寧に話しかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることがないように職員同士、注意を払い、意見を言い合い、ケアについての悩みを打ち明けたり、聞いてもらえる事業所の雰囲気を大事にし、防止に努めている。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	解らないケースがあった場合は、包括支援センターの方の問い合わせ、説明を受けたり、保佐人である弁護士に相談し、支援方法を検討したり、解決方法を勉強し活用した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、時間を作っていただき、疑問や不安を解消できるよう、十分な説明を行っている。また、書類上でもサインをいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望があった場合は、会議や申し送りノートで議題にし、運営に反映できる様にしている。	家族の来訪時にケアや介護計画の意向を確認し、目標に入れたり、介護記録に記載している。今後は個別の記録で些細な思いも把握し共有したいと考えている。毎月個人ごとにお便りを作成し、詳細な内容で利用者の暮らしを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にコミュニケーションを大切にしている、職員が自主的に働ける職場環境を整え、職員の意見を尊重し、運営に反映させている。	毎月のフロア会議で活発に意見を交換し、職員は業務を分担して運営に参加している。代表者は食材を調達する中で日々職員の意見を聞き、備品なども積極的に検討して環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の職員のスキルを把握しており、やりがいを常に与え、環境整備、スキルアップ、向上心の後押しに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、個々の職員の力量を把握しており、研修や資格を取得するための時間も勤務扱いとし、費用も負担し、機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各職員が、進んで研修会、交流会に参加している。別ユニット職員との交流もあり、意見交換を行ないサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、できるだけ本人の現状や思いを、センター方式を使用し把握に努めている。不安、要望を確認し、受容し、安心できる環境であることを感じてもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いにも耳を傾け、一緒に支援方法を考え、不安を解消できる支援を行なう事で、安心していただけるよう、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の思いを確認し、まず直ちにできるサービスを提供し、常にアセスメントを行い、本人、家族の理解を得た上で、他のサービスに移行する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、同じ空間で同じ時間を過ごし、個々の能力に応じた作業を行う事で、「共に暮らす」という意識を持ち、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの家族関係や絆を大切に、本人の思いを考え、理解し、家族と共に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、場所には、家族と協力し、関係や思い出や記憶が途切れない様に、家族と協力し、お連れしたり、招く支援を行なっている。	法人事業所内で利用者の状態から住み替えもあり、お互いに行き来して交流を深めている。家族や親族の支援でお墓参り、外泊、買い物、外食などに出かけている。訪問美容室とは顔馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や感情の変化を把握し、レクレーションや共同作業で関係を深めている。常に職員が調整役となり、利用者同士が自然と支え合う関係になっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族より、その後も連絡をいただき、後の生活支援に繋げるための相談にのったり、支援事業者とも連絡をとる事がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や暮らしの思いを、できるだけ把握する努力をしている。寄り添い、さりげない会話から思いや、どうしたいのかも聞けるようにしている。	会話や表情から思いを把握し介護計画書(1)に記載している。3か月ごとに課題分析表を更新しているが、入居時のセンター方式「B-3シート」を活用し、暮らしや趣味嗜好など情報の追記も考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族から生活歴を記入して頂いたり、お話しの中から把握する。又、利用者の日頃の会話の中からも見つけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態は、日々変化が見られるため、その日の過ごし方は、職員間で情報を共有し、一日一日話し合い、支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いをくみ取った上、担当者が中心となり、スタッフ一同で話し合い、現状に即した介護計画を立てている。	担当職員がモニタリング記録を行い、カンファレンスで確認・評価し3か月ごとに介護計画を作成している。分かる利用者にも計画の内容を説明している。個人記録の下段に介護計画を意識して変化なども記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録の他、ふっともらしたつぶやき等も聞き逃さない様に「つぶやきノート」を作成し、情報を共有しながら支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している老人ホームや同敷地内にあるGHと合同でイベントを行ったり、その時々生まれるニーズには、その都度話し合い、形に捕らわれない様になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に神社、小学校、保育園があり、散歩をしたり、児童、園児との楽しい交流の時間がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を優先し、かかりつけ医がない場合は訪問医師を紹介している。通院に職員が同行する事もある。	利用開始時に受診先を確認し、ほぼ協力医の訪問診療を受けている。専門的な他科受診時には協力医の紹介で事業所が対応している。受診内容は個別の「利用者周辺の動向記録」の中に記載しているが、経過が分かりやすい方法を考えている。	

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも気になる事がある場合はもちろんの事、常に報告、相談をしながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が個々に面会に行き、孤立感や焦燥感を持たない様に努めている。その際、病院関係者と情報交換し、退院後の生活がスムーズである様備える。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応説明を行う。終末期のあり方については、医師、看護師同席の元、本人家族の意見統一の必要性を説明した上で、希望を確認しチーム支援に取り組んでいる。	重度化対応と看取り指針を説明し同意を得ている。状態の変化時には医師の判断の下で「終末期のあり方」を説明し、「看取り介護についての同意書」を交わし看取りを行っている。内部研修で看護師が指導し、看取り後の振り返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急の訓練を受けたり、職員間で確認し合ったり、個々にシミュレーションしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回自衛消防訓練を行っている。うち1回は消防の方立ち合いの元行い、地域の方の参加もある。地域の方とも協力体制ができている。	法人事業所合同で夜間を想定した避難訓練を行い、町内会役員の参加を得ている。各災害時の備蓄品類を整備し、職員の救急救命の訓練も計画的に行っている。今後は防災計画に沿って地震などの訓練を予定している。	地震などの行動指針に沿って、事業所内の危険個所の確認や各ケア場面での対応を職員間で話し合い、次回の訓練につなげるよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、その方に合った言葉掛けで対応している。トイレ誘導の言葉はさりげなく、プライバシーを損ねない言葉を選んでいく。	利用者の人格を尊重する接遇の内部研修で利用者に合わせた対応や言葉がけを学び、馴れ合いや不快感を生じないように努めている。トイレの声かけも羞恥心に配慮して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の難しい方には、押しつけにならない様問いかけ、思いをくみ取り、希望や自己決定ができる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や朝食の時間も日々違うように、一人ひとりのペースを第一に支援している。また、どのように過ごしたいのか、自己決定出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問美容室には、自ら、好みの長さに切ってもらったり、外出やイベント時は、お化粧品やネイル支援も行っている。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい大きさにカットしたり、飲み込みやすいように、ミキサー食、トロミ食を提供している。	食材の下準備、味見や配膳、包丁を使うこともあり、利用者個々のできる力を生かし職員と一緒に食事作りをしている。行事食では利用者の希望に応えた献立で楽しく食事をしており、おはぎやちらし寿司は好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立を提供している。一人ひとりの摂取能力に合わせた形状(刻み、トロミ)で、水分量の把握にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの誘導や声掛けを行っている。一人ひとりの状態に応じて、仕上げ磨きや、スポンジブラシ、舌ブラシなども使用し、ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に合わせ、さりげない促し支援や、排泄間隔サイクルを把握し、誘導してトイレで排泄できるように支援している。	日中、全員がトイレでの排泄が継続できるように、職員は利用者の排泄間隔を把握している。「別荘に行きましようか」とユーモアのある声かけには利用者も楽しみながらスムーズに行っており失敗も少ない。夜間も半数以上がトイレで排泄を行っている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オイル、ヨーグルト、繊維質食材を摂取できる食事の工夫と、一日目標水分量を摂取できるよう摂取能力に合わせ提供している。体操や室内歩行、立座運動を行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が楽しく癒しの時間になる様に、本人のタイミングや気分に応じ、職員を増員したり、シャワーキャリーを使用し支援している。	土・日以外の午後の時間帯に利用者の希望や体調に合わせて週2回程度の入浴支援を行っている。担当職員とのおしゃべりは利用者にとって楽しみであり入浴拒否はない。好評の柚子湯は、毎年の恒例となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静かな環境や人の声、気配を感じて眠りたい等、本人にとって安心して気持ち良く眠れる環境を用意したり、時間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師との連携を密にし、薬情報をすぐ確認できる様に保管し、変更時には文章による引継ぎを徹底し、服薬支援できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き洗濯物たたみ、掃除などの家事を中心にできる事を活かし、多くの役割を持って頂く様に心がけている。また散歩や体操を日課にし、気分転換できるようにしている。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺や神社まで、車椅子使用の方も、交代で散歩に出掛け気分転換を図っている。	日常的な散歩コースは、ホーム周辺の江南神社から畑や保育園に立ち寄り、園児と触れ合い、車椅子の利用者も参加している。春には貸切バスで札幌市内の桜名所めぐり、地域のお祭りや花火見学などにでかけている。買物や外食などは家族支援でも行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向を受けて、ホームにて金銭を管理している方が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用出来る様にしている。希望者は手紙の代筆支援も行っており、家族とのつながりを大切にしていけるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースには季節に応じた装飾や誕生日ポスター、散歩中に見つけた花を摘んで、テーブルや居室に飾っている。また、室温や湿度を常に配慮している。	ホーム中央にあるリビングや食堂は団欒の場となり、壁には利用者と一緒に作成したポスターや季節感ある作品が掲示され、居心地のよい場所となっている。4か所のトイレは広く清潔で混雑なく利用でき、室内の環境は細やかに配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの一角にテレビ、ソファを設置している。気の合う仲間と触れ合い、お昼寝も出来る様居場所づくりの工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や孫の写真を飾ったり、使い慣れた家具や馴染みの物を置いて、自分の部屋であると認識できるようにしている。	居室には自宅で使って馴染んだ椅子やテレビ、筆筒や食器を持ってきて居心地よく暮らせるように支援している。家族や孫の写真、思い出のものを飾り、仏壇も置くなど安心できる環境を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーになっている。トイレや浴室ホールには手摺りを設置している。安全に過ごせるように動線を考えた家具の配置をしている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム・ベルⅡ

作成日：平成 29年 11月 1日

市町村受理日：平成 29年 11月 2日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	地震等の防災に関して訓練や話し合いを行い、不安を解消しなければならない。	地震災害時、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付ける。	地震時対策を、フロー会議の際、事業所内の危険箇所の確認や各ケア場面での対応を話し合い、訓練に繋げる。	6ヵ月
2	26	本人、家族の希望や思いを会話の中で把握しているが、すべてが、記録されたり、共有していない事もある。	本人、家族の思いや希望に即した、介護計画を作成する。	本人の言葉や来訪時の家族の言葉を書き留めるノートを用意し、職員間で情報を共有し、介護計画に反映させ、支援する。	6ヵ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。